

II 事業の概要

1 教育事業の実施状況

【久留米信愛短期大学】

1 短期大学の概要

(1) 設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科

(2) 学科の入学定員、学生数の状況（平成 30 年 5 月 1 日）

学科名		平成 29 年度	平成 30 年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	
	収容定員	200	200	
	在籍者数	120	139	
	充足率 (%)	60.0	69.5	
フード デザイン学科	入学定員	40	40	31 年度 入学生から 定員 35 名
	収容定員	80	80	
	在籍者数	38	37	
	充足率 (%)	47.5	46.3	
全 学	入学定員	140	140	
	収容定員	280	280	
	在籍者数	158	176	
	充足率 (%)	56.4	62.9	

(3) 卒業者、学位授与の状況について（平成 31 年 3 月 31 日）

	幼児教育学科	フードデザイン学科	合 計
平成 28 年度入学生	1	0	1
平成 29 年度入学生	70	19	89
在籍者数	65 (退 5・除 1)	19	84
卒業資格なし	1	1	2
卒業者(短期大学士)	64	18	82

2 はじめに

平成 30 年は「2018 年問題」と呼ばれる 18 歳人口が激減期に入る年でした。平成 29 年度には「信愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画～」(5 年間の中期計画)を策定し、不転の決意をもって再生の道を歩み始めました。男女共学の初年度でした。

3 平成 30 年度の重点的取り組み

(1) 短期大学再生プラン

①現状と課題

平成 28 年度の入学生は幼児教育学科・フードデザイン学科ともに近年最も低い数字でした。平成 29 年度の入学生は前年度比、幼児教育学科+16・フードデザイン学科±0、計+16 名と増加はしましたが、V字回復と呼ぶには至りませんでした。平成 30 年度入学生は前年度比、幼児教育学科+4・フードデザイン学科-1、計+3 名となり、幼児教育学科は 2 年連続増となりましたが、フードデザイン学科の危機的な状況は解消できませんでした。そこで平成 31 年度入学生からフードデザイン学科の定員を 40 名から 35 名に減らしました。平成 31 年度の入学生は前年度比、幼児教育学科-10・フードデザイン学科+8、計-2 となりました。

②開かれた学校づくり

平成 30 年度入学生から共学となりました。主に 18 歳の女子を教育の対象とするこれまでの短期大学から、男女の区別や年齢の差、環境の違いや障がいの有無を超えた、多様な学習目的を持つ多様な人々に応じた、すべての人の夢を叶える短期大学の創造を目指します。高校生を対象とした高等教育提供だけでなく、学び直し場として、転職のための免許取得の場として、退職後のセカンドライフの学びの場として、リカレント教育の場として、さまざまなニーズに応える教育を構築します。

③学生募集の強化

ア 共学化への対応

男子学生の初年度入学者の目標を 5 名とし、5 年後の目標を 10 名としました。その結果、初年度は 6 名の入学者を迎えることができました。6 名とも本学にふさわしい学生で、そのうち一人は平成 31 年度の総務委員長に選出されました。男子学生の入学者目標 10 名を 5 年後から 3 年後に変更しましたが、平成 31 年度の男子入学生は 3 名にとどまりました。

イ 社会人入学生の開拓

社会人入学生を増やすため、「パコラ」での広告やウェブサイトでの広報を強化した結果、18 名の社会人入学生を迎えることができました(昨年度は 15 名)。

ウ SNSを使用した広報

ツイッター・フェイスブックを広報活動に使用し、動画を積極的に導入しました。

エ マスメディアによる報道広報

地域のイベント等に学生が積極的に参加し、新聞等での報道を活性化しました(「ココ、カラダ。」等)。

(2) 新規中期プラン作成

2018(平成 30)年度から 2022(平成 34)年度までの 5 年間の短期大学の中・長期計画(「信

愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画」) を策定しました。

(3) 大学改革等による外部資金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業」「私立大学等経営強化集中支援事業」にエントリーし、「私立大学等改革総合支援事業」に採択されました。なお、私立大学等経営強化集中支援事業」は平成 31 年度から廃止されました。

「私立大学等改革総合支援事業 タイプ 1 教育の質的転換」の補助金は 5,700,000 円で九州の私立短期大学 37 校中 11 校が採択されました。

4 幼児教育学科

(1) 教育活動の充実

①本学の保育者養成力の向上を図るため、教育内容の点検、開講期などカリキュラムの変更を行い、正式に文部科学省から教職課程の再課程認定の認可を受けると共に、保育士養成課程カリキュラムの変更届についても福岡県知事の承認を受けました。

②保育・教職実践演習で作成する履修カルテを基に、学生ポートフォリオを用いた学生への教育支援プログラムを実施しました。また、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招き、実践的な学習プログラムを実施しました。

(2) 学生支援の充実

就職部と連携して保育職面接特訓講座などを実施したほか、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会、福岡市保育協会、久留米市保育協会、大牟田市保育園連盟と養成校との懇談会への参加や実習訪問指導などの機会を通じて情報交換を行い、信頼関係を深めました。結果として保育職の求人は 1052 件（求人数は 1519 人）を確保でき、就職率も 3 月末で 100%（保育職等の専門職 98.3%）を達成しました。

(3) 研究活動の活性化

研究活動の活性化として担当科目についての教育研究を学科の目標として挙げて取り組み、学会誌への投稿、学会発表、本学研究紀要への投稿、テキスト出版等を行いました。また、信愛保育研究会の活動として、卒業生の保育者と本学教員との共同研究を開始しました。

(4) 地域参画

おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画しました。具体的には昨年度に引き続き、「信愛つどいの広場」（週 3 回）、「子育て支援講座」（全 12 回）、「子育て相談」などを実施しました。また、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を行いました。その他にも、今年度から開講した「チャイルドプロジェクト」において「ピアノ・トーンチャイム研究会」、「ボランティア研究会」、「保育の心理学研究会」、「からだあそび研究会」、「科学遊び研究会」、「造形の楽しみ研究会」、「声楽研究会」の 7 つの研究会が、それぞれ地域活性化を目的としたイベントへの参加、子育て支援の現場との連携した活動(17 件)を実施しました。

(5) その他

8 月に教員免許更新講習（幼稚園教諭対象）を実施、延べ 340 名が受講者しました。

高大連携は南筑、明光学園、誠修、三井中央、福岡海星女子学院の各高等学校との連携事業、並びに信愛高校との接続事業を合わせて 12 プログラム実施しました。また他の高校への職業

理解等の出前講座（15回）も実施しました。

5 フードデザイン学科

(1) 「2018年改革」

2019年度入学生より定員を35名としました。

「学生募集」は、「学科再生計画」に挙げた対策（フード公開授業、信愛ひらく相談会など7事業の取組）を実施しました。また委託訓練校に認定されたことが入学者数増につながりました。結果、2019年度入学者26名（内、委託訓練生5名）、定員充足率60% $\{(26+19) / (35+40) * 100\}$ となり、当初の目標「51%以上」は達成しました（2019年度は「2020年度80%以上」に向けて、取組みます）。

(2) 公開講座

平成30年度は、3講座開講しました。

① 「みんなの食育講座Ⅰ - 卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子（本学非常勤講師、食空間コーディネーター協会認定講師）

- ・第1回 『はなといきる』・アイスティをおいしく 平成30年5月26日（土）
- ・第2回 台風接近のため中止（平成30年7月7日）
- ・第3回 「事納めのしつらい」平成30年11月17日（土）
- ・第4回 「事始めのしつらい」平成31年1月26日（土）

受講者数はのべ34名でした。

② 「みんなの食育講座Ⅱ - 健康寿命を延ばす食生活」

講師：石井妙子（本学教授、元済生会福岡総合病院栄養部科長）

- ・第1回 「噛むのが難しい方のための調理の工夫」平成30年6月16日（土）
- ・第2回 「飲みこみにくい方のための調理の工夫」平成30年6月23日（土）

受講者数はのべ17名でした。

③ 「みんなの食育講座Ⅲ - 手作りを楽しむ」

講師：山下浩子、江越和夫、山村涼子（本学教授、開講順）

- ・第1回 「うどん」平成30年8月25日（土）
- ・第2回 「豆腐」平成30年9月29日（土）
- ・第3回 「クリスマスケーキ」平成30年12月22日（土）

受講者数はのべ29名でした。

(3) 地域企業との共同開発

本学教育改革推進事業の一環として幼児教育学科チャイルドプロジェクトと共同で、地元和菓子店「菓子舗古賀庄」様の協力により、『くるめ信愛菓』の開発に至りました。

その他の取組は、平成29年度に引き続き、「JAくるめ」、「生活協同連合会グリーンコープ連合」、『くるメディア』（西日本新聞）の3団体との連携活動に取り組みました。

(4) 地域参画

平成29年度後期からの「フードプロジェクト」科目開講に伴い、これまでの地域参画活動がより活発になりました。とくにチャイルドプロジェクトとの共同活動、高大連携事業参画へも展開しました。

①チャイルドプロジェクトと共同（教育改革推進事業）

- ・『くるめ信愛菓』開発
- ・「第1回信愛ひらくフォーラム」提供菓子考案作製

②地域参画活動

- ・学生考案料理の企業広報誌掲載（JA くるめ／9年、グリーンコープ／3年）
- ・久留米市就学支援事業における食育ボランティア（5年）
- ・「くるめフォーラム2018」展示（3年）・くるめ信愛菓販売（新規）
- ・「信愛クリスマスショップ」出店（久留米ほとめき通り商店街／2年）
- ・「くるめ菓子祭り」ボランティア（久留米菓子協同組合／新規）
- ・「安武校区子どもエコクッキング」ボランティア（久留米市環境部／新規）
- ・「市民大感謝祭市場まつり2018」くるめ信愛菓販売（久留米市／新規）
- ・「久留米日米協会イベント」くるめ信愛菓販売（新規）
- ・「聴覚障がい者対象食育講座」調理実習ボランティア（食と健康の和協議体との共同食育活動／新規）

③高大連携事業

- ・三井中央高校文化祭参画『くるめ信愛菓』の販売

(5)「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、フードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の3団体（研修会）に施設開放を行いました。

- ・久留米大学講義「食と健康」における調理実習（4回）
- ・久留米市学校給食会研修会（1回）
- ・筑後地方保育協会保育士会給食研修会（2回）

6 おわりに

2018（平成30）年を境に18歳人口は激減期に突入しました。今後100～170の大学が閉じるとの推測もあります。文部科学省も大学数を減らす政策にとりかかりました。本学としては、教職員一人ひとりのポテンシャルを信じ、「一の心、一の魂」の精神をもって、知恵と汗を絞り、創立100周年を迎えたいと考えています。

【久留米信愛中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

重点目標：カトリックの教育理念に基づいた「一人ひとりを大切にする」教育を実践し、広い視野と多様性を受け入れる心を育み、いきいきと活動する人間性豊かな生徒を育成する。共学化とともに学びの深化及びグローバル教育の強化を目指す。また、落ち着いた教育環境のもと、「分かる」から「できる」へ、寄り添い見守る教育を推進する。

目指す学校像：「自己を他者に生かすことのできる真のリーダーを育成する学校」

目指す生徒像：「深く感じ取り、考え抜く生徒」「自立し、積極的に行動する生徒」

「信愛ひらくプロジェクト」2年目、高大接続改革が本格化する2020年へ向けて学びの深化とグローバル教育を強化するために、国際理解教育の充実を図り、職員研修を手始めにICT教育を推し進め、アクティブラーニングのプログラムの充実や促進を図りました。

共学化の初年度にあたり、「対話的授業」「課題解決型学習」の視点から自立した学習習慣の定着を図り、『学びの自立』に向けた取り組みを行いました。『学びの自立』とは、自分自身で理解しようとする姿、学んだことを説明できる姿を指し、それが明日の学びに繋がる生徒の姿そのものです。これを自己学習力・自己教育力を育む『学びの自立』と考えます。そこには、授業者の具体的な取り組みが必要となります。そのために、共通確認したことは授業展開における「めあて」の板書や、各教科単元内容でペア学習・グループ学習の小集団学習の意図的活用などの指導形態、さらに質問、発問を使い分け生徒に考えさせるというものです。この取り組みを計画的・意図的・継続的に行った結果、自分の考えに他者の意見を取り込み改善しようとする姿勢が生徒に見られました。また、ICT活用のための職員研修も既存の施設を活用して活発に行い急速に推進させることができました。とりわけ若い教職員だけでなく、ICT活用推進委員を各教科に定め、全教科で積極的に取り組んだことは大きな一歩と考えられます。

2 教育活動

(1) 生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施や個人面談等の細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。合格した主な大学は次の通りです。

〔国立大学〕 熊本大学2・佐賀大学3・福岡教育大学1・長崎県立大学1・島根大学1

〔私立大学〕 上智大学・立教大学・東京理科大学・津田塾大学・学習院女子大学・フェリス学院大学・同志社大学・関西学院大学3・近畿大学3・京都女子大学・広島国際大学
西南学院大学7・福岡大学25・久留米大学10他

(2) 理数系に強い女子の育成について、進学実績から見てみると理系学部学科への進学は30.4%となり、医学部医学科へは7年連続合格者を出しました。生徒の特性を踏まえた学習指導の充実と視野を拡げるための各種研修会への参加奨励等を行った結果と見ています。日常の取り組みとして中心に据えているのは「寄り添う指導」です。自律学習へ向かうためのきめ細かな個別指導及び全体指導を行い、3年間または6年間をかけての進路意識高揚と学力向上を図っています。これから必要とされる社会人基礎力とも言うべき「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の育成は本校が得意とする領域です。生徒に寄り添い、大学

受験を睨みつつさらなる進路指導の充実を考えていきたいと思ひます。

- (3) 複雑にグローバル化が進む中、国際的視野育成のプログラムを充実させ、国際交流の深化と語学研修の充実に努めました。

プログラム	概要
カナダ修学旅行	高校2年生(80名) 10月実施 バンクーバー周辺 6日間 4泊ホームステイ セント・トマス・アキナス校との交流
韓国研修旅行	高校1年一貫生希望者(34名参加) 10月実施 ソウル・天安 姉妹校福者女子校との交流 3日間(うち1泊はホームステイ)
ニュージーランド研修	中学3年希望者(23名参加) 8月実施 オークランド 10日間 姉妹校セント・ドミニクス・カレッジでの語学研修
福者女子校との交流会	高校2年 7月実施 九州への3日間の修学旅行の一環として生徒(30名)、教師(8名)、ガイド(1名)来校 本校生徒宅へのホームステイ
イングリッシュ・キャンプ	中学1年(86名参加) 10月実施 2日間 本校 通学型英語漬け合宿 外国人講師6名
海外留学(1年間) 帰国	高校2年:3名(アメリカ、カナダ、ニュージーランドより)
海外留学(1ターム) 出発	高校2年:1名(ニュージーランドへ)
海外留学生の受け入れ(1年間)	高校1年:1名(アルゼンチンより)
海外短期留学生の受け入れ	中学3年:1名(アメリカより)
聖マリア病院留学生(医療従事者)との交流(中学)	中学2年59名 11月実施 国際交流事業研修員7名(男性5名・女性2名)の出身国について事前に調べ、当日は質問をし説明を受けるなどして理解を深め、日本文化についても紹介した。

3 広報活動

地域の全般的な学校評価としての側面を持つ入学者数・一貫進学者数は、中学校では、共学2年目の生徒受け入れとなる2019年度(平成31年度)入試で、入学者90名中に男子29名で32.2%(昨年度32.6%)を占め、約3分の1が男子入学者となりました。志願者数215名、前年度比120.8%となり、90名入学で定員ちょうどとなりました。歩留まり率は前年度48.3%に対し、今年度は41.9%でした。中学校入試においては、以前から個別相談会(お試し受験会実施後に行っていた、試験成績をもとにした受験相談会のこと。信愛オープン学力診断テスト〈以下オープンテストと呼ぶ〉実施後にも行っている)に来場した受験者の入学率は高かったのですが、オープンテストの開始以降、この状況はさらに顕著になりました。次年度で5回目となるオープンテストについて受験者増のための方策と個別相談会への参加者増のための工夫がさらに求められます。同時に、体験入学会の実施方法も見直し、多くの参加者に対応し充実感をもってもらえる形態を模索しました。また、学習塾との円滑な関係の構築、特に小学校への

積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を抜本的に見直し、2018年度から小学校訪問を強化いたしました。

高校では、共学初年度の生徒受け入れとなる2019年度（平成31年度）入試で、高校1年160名中に男子26名で16.3%と学年の約6分の1を占め、高校からの入学者105名中24.8%、ホームルームでは約4分の1が男子入学者となりました。2016年度（平成28年度）から、従来の学際特進コースとS特進コースをそれぞれ学際コース、選抜コースとしました。学際コースは4つのフィールド（教育・保育、食物・健康、医療・看護、総合）に加え、新しく情報コミュニケーションフィールドを起こし、学ぶ内容が明確になるようにフィールドの名称を変更しました。2019年度（平成31年度）入試では志願者数381名、前年度比209.3%となり、160名入学で前年度比188.2%となりました。また、推薦・専願入試での入学者が前年度比247.6%となりましたので（前年度21名、今年度52名）、今後この数の維持を考えていく必要があります。なお、本校中学3年生67名の内の他校受験は14名で、その中で本校進学は2名でしたので55名（82.1%）の中学3年生が久留米信愛高校に進学したことになります。課題として、中学生とその保護者にとって高校や一貫生の魅力とは何かという基本的な問いに立ち返り、高校の魅力づくりと進学実績の一層の向上が求められます。また、本校中学生への進学の勧め方の工夫も必要ですし、コースとフィールドの内容や広報計画について改善の必要もあります。

そこで、前年度までの本校への受験生・入学生のデーターを分析しました。その中で高校受験をする生徒数を市内と市外で比較検討すると、甘木・朝倉校区の受験生に比べ市内の受験生の絶対数に対する受験者数の減少、とりわけ本校に近い明星中・青陵中・高牟礼中・良山中の受験者数の低迷、ドーナツ化現象が見られました。まずは一番近い学校に信頼をしてもらうためにも受験生を増やす取り組みを行いました。具体的には、担当が挨拶と説明を兼ねて年7回の訪問に加え、PTAとして学校視察に来校してもらったり、こちらから中学校へ学校説明会に伺ったりしました。さらに3学年職員の学年会に参加させていただくなどの計画を掲げて取り組んできました。このように二重三重の工夫を重ねた結果、前述した4校の中学校からの受験生が大幅に増えました。この取り組みは今後市内全体に広げていきます。この取り組みが定着し、市内中学3年生の受験者数が安定したものになればスクールバスの廃止も考えられます。

4 その他

- (1) 中学1年から高校3年まで学年単位、または学年合同で発達段階に応じた行事、テーマに合わせて、「神父様の講話」や神父様のご指導のもと行った「中3学年ミサ」、「錬成会」、「みことばの祭儀」、職員対象のミサや研修会などを通して、カトリック学校としての教育理念の確認、「信愛教育」の徹底を図ってきました。
- (2) 同窓会との連携で、5月に「ロザリオの集い」（人生の節目となる40歳・60歳の集い）、1月に「信愛成人式」などを催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「信愛生の一生をサポートする」学校の姿勢の明確化・定着に努めました。「野のゆり奨学金」が「野のゆり入学お祝い金」となって4年目、同窓生の子女の入学をサポートしています。
- (3) 筑後中経協の方々を中心に社会に出てリーダーシップを取りながら働く皆さんを招聘して、高校1年生が12月に少人数のグループに分かれ座談会形式で交流する場を設けました。講師を招いて行うインプット型の講演会に加え、今後社会で求められる力として人前で自分を押

し出す場を設け、自己表現力やコミュニケーション能力を高めるアウトプットとしての機会としました。

- (4) 後援会との連携で、「信愛近隣北地区」・「信愛近隣南地区」・「久留米市街東地区」・「久留米市街西地区」・「久留米南西地区」・「久留米北東・三井地区」・「田主丸・吉井・うきは地区」・「甘木・朝倉地区」・「八女・筑後地区」・「大川・柳川・大牟田地区」・「小郡・筑紫野・福岡地区」・「鳥栖・三養基・佐賀地区」の12地区に地区保護者会を振り分け、懇親会の開催や文化祭への出店参加など、後援会のネットワークが一層強まりました。
- (5) 後援会との連携で「信愛父親の会 (Shin-ai Dads' Club)」が2013年度に発足し6年目を迎えました。活動は5月に体育祭のテント立て、9月に文化祭警備、12月上旬にイルミネーション設置作業と点灯式を催し、お母様方の参加もありさらに充実したものとなりました。ご公現の日(1月上旬)まで灯されるイルミネーションは地域の方にも定着し喜ばれています。
- (6) 2018年度は、中学校共学化とそれに伴う制服等の変更の年でした。2017年度に複数回保護者説明会を実施し、在校生にも2017年度から2018年度にかけて、折に触れて変更点と変わらないものについての説明を丁寧に行い進めた結果、前向きな雰囲気の中、学校全体としては落ち着いて教育活動を行うことができました。もちろん中学1年に入学してきた男子や共学クラスへの対応については、従来の女子教育の形態から指導の手法を変更する工夫(体育の授業前後の着替え指導や女子とは異なる志向や成長段階への対応等)は必要となりました。ただし、信愛教育の根本にかかわる部分においては、教育目標に沿って教育活動をスムーズに進めることができました。

教育内容や教育活動に目を移しますと、学院創立60周年の2020年という節目の年に向けて開始された学院改革プロジェクト「信愛ひらくプロジェクト」のもと、中学校に続き高等学校共学化もその一環として実施されるものですが、それも含めてあらゆる面で教育を再検討しました。2020年高大接続改革を視野に入れてのカリキュラムや教育プログラムの変更、募集・入試に関わってのパンフレット作成、行事の検討、部活動の再編成、施設設備の整備や配置検討(特に男子WCや男子下足箱の設置等)、職員研修と種々の準備をすすめてきました。すべての準備がほぼ整い、男子中学生に続き2019年度は男子高校生を受け入れ、共学の学年は6学年中3学年となります。今後は、対応や対策だけに終わることなく、久留米信愛の将来を見据えて、その展望のもとに授業の充実と各種施策を進めていきたいと考えています。同時に、女子生徒だけの学年や保護者への配慮も忘れることなく行っていきたいと思えます。

【久留米信愛幼稚園】

1 重点目標の達成

信愛幼稚園らしさを充実させ、子ども達も保護者も職員も共に満足度を上げる。

(1) 園児数の推移 (平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月末日/平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月末日)

	新入園児数	4月1日	4月末日	5月1日	5月末日	6月末日	7月末日	9月末日	10月末日	11月末日	12月末日	1月末日	2月末日	3月末日	
29年度	在園児数		147	234	236	239	241	245	243	244	263	266	266	269	268
	退園児数														
	5歳児入園	2	2	-1	1	-1		-1							
	4歳児入園	2	2						-1	-1					-2
	3歳児入園	28	28		2			-1	1		-1			-1	-6
	満3歳児入園			3		3	4			20	5		3		1
	前年度満3歳児入園	55	55												
	計	87	234	236	239	241	245	243	244	263	266	266	269	268	261

	新入園児数	4月1日	4月末日	5月1日	5月末日	6月末日	7月末日	9月末日	10月末日	11月末日	12月末日	1月末日	2月末日	3月末日	
30年度	在園児数		147	213	221	221	225	230	230	230	254	258	263	269	272
	退園児数								-2						
	5歳児入園	1	1						1						
	4歳児入園	4	4	3		1			3						
	3歳児入園	22	22				1	1	1					1	
	満3歳児入園			5		3	4	-1	1	20	4	5	6	2	8
	前年度満3歳児入園	39	39												
	計	66	213	221	221	225	230	230	230	254	258	263	269	272	280

満3歳児の10月以降からの移行者が随時あったため、平成31年3月末日の園児数が前年を上回ることができました。

(2) 主な行事

日	行事	内容
4/7 (土)	入園式	開式 11:00～ (例年 10:00)
4/27 (金)	歓迎遠足	浦山公園 駐車場：成田山より借用
6/4 (月)～15 (金)	久留米信愛短期大学1年次実習	男子学生6名参加
9/15 (土)	フェスタ テント準備	預かり保育に支障→来年より預かり無し
9/16 (日)	信愛フェスタ	午前終了の短縮プログラム
11/28 (水)	ドッチボール大会	体操参観の内容とする
12/15 (土)	西鉄久留米クリスマスイベント★	西鉄バス装飾 (年長児親子希望者対象)
2/12 (火)	くるめさんぐるめさん撮影★ (年長児のみ)	久留米信愛短期大学からだあそび研究会と地域参画推進事業に参加

2/16 (土)	作品展	モンテッソーリわくわくランドと同日開催
2/20 (水)	交通安全指導 (年長児のみ) ★	横断歩道指導 久留米警察署から2名・市役所2名

- ・例年の行事に関して、子ども達の負担と保護者の利便性を考慮し部分的な変更をした上で実施。
- ・外部への園 PR を兼ねて可能な形で参加する。(行事名★)

2 募集活動

- (1) 「教育内容の共感」のために園見学会や体験会を開催。入室人数を2～3人にする事で子どもと保護者への対応が細やかになりました。
- (2) 未就園児対象「モンテッソーリわくわくランド」

参加人数72名(年間)、うち22名がつぼみ組もしくは入園に繋がりました(30.5%)。参加状況を見る限り、初回でつぼみ組へ入会される方が大半でした。頻繁に参加されていても入園には至らないケースが目立つことから、初回の印象のその後への影響は大きいと考えられます。園見学会への参加は「モンテッソーリわくわくランド」がきっかけとなり参加してくださいました。

3 その他の取り組み

- (1) 預かり保育

自分の持ち物の管理整理がしやすいように配慮された環境の中で、月毎の作品作り活動・戸外活動・こども図書館訪問・掃除等を盛り込みながらもゆったりとした空間が確保されます。子ども達自身でおやつ配りやおやつ後の片付けのお手伝い、上の子が下の子のお世話をする姿がありました。

- (2) 卒園児のための土曜学校

1年生から6年生の仲が深まるようチームを作って活動する機会を増やし、みんなが楽しめるように配慮しました。

- (3) 療育との連携

「気になる子」に関して積極的に市の巡回相談を利用しました。また、保護者と話し合う機会を設け、承諾いただけた場合は担任が療育を見学して関わり方を学び幼稚園での保育に繋げました。